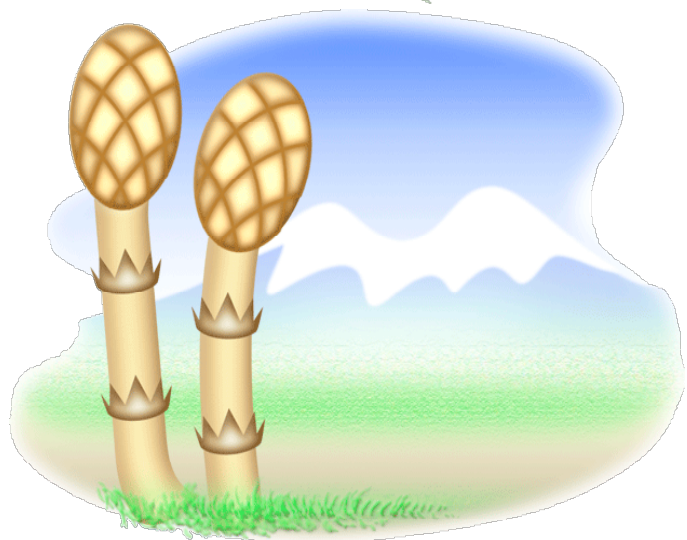
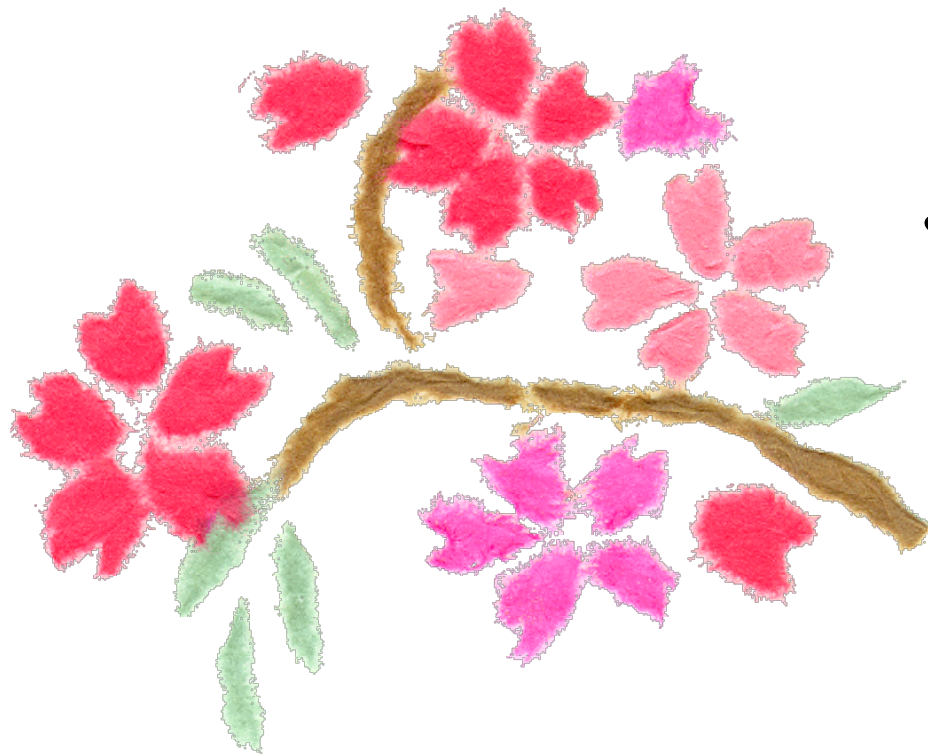


NPO法人現代の教育問題研究所主催

第4回近江の子ども俳句教室

〈投句部門〉

作品集



後援

滋賀県・大津市・草津市
滋賀県教育委員会・大津市教育委員会・草津市教育委員会
草津俳句連盟・えふえむ草津・FMおおつ・エフエム滋賀
産経新聞社・中日新聞社・朝日新聞大津総局
読売新聞大津支局・毎日新聞大津支局

はじめに

「第4回近江の子ども俳句教室（投句部門）」に応募してくださった皆さま、ありがとうございます。

主催者である「特定非営利活動法人（NPO）現代の教育問題研究所」というのは、国語や言葉を大事にしようという強い気持ちを持った小学校の教師（先生）達の団体です。会員は、毎日、学校でがんばっている人だけでなく、退職をしてからも言葉を大事にしたいという元教師の人達もいて、一緒になって、勉強や活動をしています。

言葉を大事にしたいという活動の一つに、「子ども俳句教室」を企画してきます。琵琶湖を見ながら、俳句を作るという計画を立て活動をしてきました。しかし、新型コロナ感染予防のため、多くの人が集まるとができませんでした。そこで、「投句部門」を設け、全国の皆さまに応募して頂くという方法で行い、今回で4回目になりました。

俳句は、五・七・五の十七音で作品を作るという約束があります。一文字一文字が大事な役割をもっているという少し窮屈なところがあります。これは「米洗う前」に「螢が二つ三つ」です。昔の人が考えた俳句があります。それは「米洗う前」に「螢が二つ三つ」です。これは、まだ、水道がなかった時代の俳句です。その頃は、家の前にも川がありました。家の前になくても、少し歩けば川があったのです。明日のご飯を準備するために米を洗っているときのことを思う浮かべて想像してください。川で米を洗っている時、目の前に螢がいた様子を私は想像しました。

ところが、この俳句を、次のように作り変えた人がいました。

「米洗う前を螢が二つ三つ」

「米洗う前へ螢が二つ三つ」

「米洗う前で螢が二つ三つ」

作り変えたところは「前を」「前へ」「前で」です。螢の様子が違ってきます。「を・へ・で」の違いです。言葉を大事につかうということに気が付くのも俳句の勉強なのでしょう。

このようなことも考えながら、応募してくださった皆さんの作品を丁寧に読みました。ありがとうございますと言いたい気持ちを込めてこの作品集をまとめました。

最後になりましたが、本事業にご後援、ご支援、ご協力を賜りました関係の皆様にご心よりお礼申し上げます。

令和五年二月吉日

特定非営利活動法人（NPO）現代の教育問題研究所

理事長 吉永幸司

滋賀県知事賞

滋賀県彦根市立城南小学校

5年

チューリップ かなしい時も 赤がすき

北川 遙愛

「何色ですか」と問われたら、遙愛さんはきつと「赤色です。」と答えるのでしょね。そう思ったのは、「かなしいときも」という言葉、その中でも、特に、「も」という一文字です。想像ですが、遙愛さんが好きな花の中にチューリップが入っていると思っっています。赤色は太陽のように明るく元気を与えるくれるので人気があります。嬉しい時に見るチューリップと違って、悲しい時の気持ちを表現しているところも印象に残りました。

吉永幸司 (理事長・元京都女子大学教授・同附属小学校長)

大津市長賞

和歌山県有田川町立藤並小学校

4年

ランドセル こつそりカイロ 母の愛

上嶋 杜和

冬の朝、登校中はとても寒く、学校に着いたころには手足がかじかんで、思うように動かない時があります。杜和さんが、ランドセルを開けて教科書などを取り出していると、カイロを見つけたのですね。「こつそり」という言葉の使い方が上手で、お母さんが内緒で入れてくださったことが分かります。「母の愛」と言い切っていることから、お母さんへの感謝の思いが伝わってきました。読んでいて、心が温かくなる作品です。

三上昌男 (元近江八幡市立金田小学校長)

草津市長賞

滋賀県彦根市立河瀬小学校

5年

夏の夜 青を分け合う 空と海

松野陽向

大自然の奥深さや人智の及ばぬ調和や摂理のようなものを感じさせてくれる句です。四季の中で一番生命感が溢れる夏の、(昼間の楽しい、美しい雰囲気とは変わって、)夜の空と海という大自然に、一人で向き合っている陽向さんの姿が想像されます。青さが感じられるのは月が出ているのでしょうか。その中で、同じ青でも空は空らしい青、海は海らしい青で広大な空間を「分け合って」いる。大自然の偉大さを再認識させられる句です。

蜂屋正雄 (野洲市立北野小学校)

滋賀県教育長賞

京都府 京都女子大学附属小学校

2年

ひなまつり 十二ひとえを きてみたい

葛山日向花

ひなまつりは、女の子の美しい成長と幸福を願うものですね。そんなおひなさまの着ている十二ひとえの着物は、とてもきれいです。日向花さんが着てみたいと思う気持ちがよくわかります。「十二ひとえをきてみたい」という言葉から、きれいなお人形おひなさまにあこがれる女の子の気持ちがよくあらわれています。日向花さんが、十二ひとえを着たらどんな女の子になるのか、思い浮かべるだけで、とても楽しくなってきましたね。

山田定子 (近江八幡市立安土小学校)

大津市教育長賞 滋賀県長浜市立虎姫学園 5年

手の上でトランポリンする焼きいもが 土田 絢葉

できたての焼きいもを、今まさに食べようとしているところでしょうか。「トランポリンする」の表現からは、焼きいもがまるでトランポリンで楽しくとびはねるような様子や絢葉さんの心はずむ気分がよく伝わってきます。焼きいもの動きに注目したことで、絢葉さんの目を通して、読み手も明るく幸せな気分を一緒になって楽しむことができます。絢葉さんの豊かな言葉の感覚が光る一句だと感じました。これからも、幸せな気分をたくさん俳句にしてくださいね。

少徳 信(彦根市立河瀬小学校)

草津市教育長賞 和歌山県有田川町立鳥屋城小学校 5年

あざやかに 炎天きりさき ホームラン 関下 紘右

真夏の太陽が輝く青空をホームランが飛んでいきます。ホームランを打ったのは紘右さん自身なのでしようか。「あざやかに」という言葉から飛んでいく角度や距離その軌跡が美しいものであったことが伝わってきます。ボールが空を「きりさく」ようにあざやかなホームラン、きりさかれた空を表すために「炎天」と言う言葉で表現したこと。紘右さんの十八音の言葉選びのセンスに驚かされました。とてもかっこいい一句です。北川 雅士(彦根市立城南小学校)

草津俳句連盟会長賞 滋賀県大津市立瀬田小学校 1年

はれたそら げんきになわとび 木よう日 高橋 真子

よくはれた秋の日の木よう日。そのすみきった青空の下でとんであそんだなわとびの気持ちよさ。この句の「はれた」と「げんき」をとくにしつかりと声に出してリズムを取って読んでみると、真子さんといっしょに笑顔いっぱいになわとびあそびを試してみたくくなります。歯切れのよいこの句から、真さんはきつと元気な一年生なのだろうなあと思いました。

森 邦博(副理事長・京都女子大学非常勤講師)

朝日新聞大津総局長賞 京都府 京都女子大学附属小学校 5年

ゴーグルで 日焼けのあとが ちょうみたい 野波 桃李

真夏に海や川に丸一日泳ぎに行ったのでしようか。家に帰って鏡をのぞくと、ゴーグルの日焼けのあとが、まるで蝶みたいにくっきり鮮やか。それを見てくすつと笑い、もう一度楽しかったことを思い出している様子がありません。おそろくご家族の皆さんも同じようにくっきり蝶みたいな日焼けのあとを見て、お互いに笑い合っただけでしょうね。「ちょうみたい」とたとえた桃李さんのユーモアのセンスが光る一句です。

好光 幹雄(実行委員長・大津市立瀬田小学校)

毎日新聞大津市局長賞 滋賀県草津市立笠縫東小学校 5年

セミをとり それをにがした 青い空 緒方 大貴

とったセミの命の時間を考えたのでしょうか。そのセミを青い空に向かって逃したという晴れ晴れとした気持ち伝わってきました。「青い空」と言い切っていることで抜けるような青空の中にセミが飛んでいく様子が想像でき、開放感のある力強い句になっています。また、「それをにがした」の「それ」という言葉から、大貴さんが第三者として見ている様子も感じとれ、高学年としての描写力もある素晴らしい俳句になっています。

長江柳子（元京都女子大学附属小学校教頭）

読売新聞大津支局長賞 滋賀県大津市志賀小学校 2年

母はおに まめまきしてよ お父さん 水谷 優希

ときどき鬼になるお母さん、いつも優しいお父さん、そして、ご両親をうれしそうに眺める優希さん。そんな温かい家族のほのぼのとした節分の日のようすが浮かんできました。一年のある一日の出来事を表した句ですが、優希さんの日々の成長をいつも温かく支えている家族の愛情を感じることができる素敵な作品です。「豆まきしてよ」とお願いされたお父さんは、この後、どんなふうにお母さんに豆を投げたのでしょうか。

海東貴利（高島市立安曇小学校）

中日新聞社賞 兵庫県西脇市立双葉小学校 6年

すいとった トマトの元氣 雑草め 安原 ウメ

ウメさんはトマトを大切に育て、しだいに成長するすがたを楽しみにしていたことでしょう。それをじゃまする雑草。最後の「め」に、くやしさがにじみ出ています。この作品は、言葉の組み合わせがみごとです。はじめの「すいとった」から、「いったい何のことだろう」という思いがわき、「トマトの元氣」へとつなげるところがすばらしいです。これからも、いろいろな野菜を育て、成長に喜びを感じる優しさを大切にしてください。

北島雅晴（野洲市立北野小学校）

産経新聞社賞 滋賀県大津市立中央小学校 2年

やえざくら 太陽あびて わらってる 仲地 心菜

あたたかな太陽の光をあびながら、満開に咲きほころぶ桜の木が並ぶ風景をイメージしました。色々な桜がありますが心菜さんが「さくらのき」ではなくて、「やえざくら」と表現しているので、たくさんの花びらをいっぱいに広げたさくらが咲いているのがわかります。また、「わらってる」という表現がいいですね。満開の桜の木を人間のよう表現するというのは大人でもできないすごいテクニクです。心菜さんの言葉選び、表現力の高さにおどろきました。

北川雅士（彦根市立城南小学校）

エフエム滋賀賞 京都府京都市立西陣中央小学校

1年

大文字 いつもおくり火 ありがとう

石橋 空明

京都ならではの季節感がある俳句ですね。「いつも」という何気ない言葉から、空明さんが毎年送り火を楽しみにしていることがよくわかります。空明さんにとっての五山の送り火は、きつと、家族と一緒に過ごすかけがえのない時間になっているのでしよう。「ありがとう」に込められた思いを想像し、あたたかな気持ちになる一句です。

弓削裕之（京都女子大学附属小学校）

F M おおつ賞 滋賀県日野町立桜谷小学校 2年

朝一おきて 日野菜つけもの まっている 隅 湖春

冬の朝、寒さに震え白い息を吐きながら食卓へ。そこにはいつもの日野菜漬け。湖春さんやご家族のみなさんにとって、日野菜漬けはもはや生活の一部、ということが伝わってきます。また、この句からは、いろんな音が聞こえてくるようです。台所で、トントントンと日野菜を切っておられる音。カリカリッと噛む音。「おはよう」「寒いね」「おいしいね」といった家族の会話。伝統野菜と共にある生活の雰囲気、しみじみと感じられる句です。

箕浦健司（長浜市立南郷里小学校）

えふえむ草津賞 滋賀県高島市立朽木中学校 3年

風邪ひくで 聞き飽きました お母さん 松川 さくら

小学校が中心の「近江の子ども俳句教室」に中学校から参加していただいたことに、まず感謝します。冬本番。雪の多い朽木の町。さくらさんの家庭での行動を見て発したお母さんの言葉。「寒いね」じゃなくて、「風邪ひくで」の方が、温かく感じますね。「風邪ひくよ」ではなく、「風邪ひくで」の方がやわらかく感じますね。その言葉も「聞き飽き」るほど、長く厳しい寒さであることが、伝わりました。春が待ち遠しいです。

高野靖人（理事・元大津市立仰木の里東小学校）

N P O 現代の教育問題研究所賞 滋賀県草津市立笠縫東小学校 5年

赤ちゃんの泣き声きいて さくらさく 三上 哲平

春はたくさんの命が動き始める季節です。花も虫も動物たちも、冬にためていたエネルギーを一気に開放して生きる喜びを表現するのです。赤ちゃんの泣き声にある、命の輝きや力強さを感じて桜の木も美しい花を咲かせたのでしようね。同時に、哲平さんの心の中にも感動の花が開いたともとることができます。命に対する温かな感性や感動がぎゅっと詰め込まれているたいへんすばらしい句です。

西條陽之（大津市立小野小学校）

NPO現代の教育問題研究所賞 滋賀県草津市立笠縫東小学校 4年

弟が はいはいできた 秋の夜 三上 和奏

「秋の夜」から静けさが伝わってきますが、そんな中、弟さんが元気にはいはいする様子がかび上がってきます。周りでは、家族みんなが笑顔で見守り、弟さんをとてわかかわいく思っていることが分かります。弟さんは、日に日にできることが増えていきます。そんな弟さんの成長を見守りながら、これからも優しさのあふれる俳句を作ってください。

北島雅晴(野洲市立北野小学校)

NPO現代の教育問題研究所賞 京都府 京都女子大学附属小学校 6年

おいもほり 六人家族 見つけたよ 米津 桃子

五七五のリズムがよく、声に出して読むと、桃子さんの弾んだうれしい気持ち伝わってきます。その日は育てたサツマイモを掘り出す日。「うんとこしょ」と力いっぱい引つ張ったら、いくつもイモが連なって、「いっぱい出てきたー！」とうれしそうに叫んでいる桃子さんの思いつきりの笑顔も見えるようです。大きいイモ、小さいイモの連なりを、これはまるで家族だと見立てた言葉の選び方にも感心しました。 森 邦博(副理事長・京都女子大学非常勤講師)

NPO現代の教育問題研究所賞 京都府 京都女子大学附属小学校 4年

おにごっこ先に友追う白い息 田仲那帆

仲の良い友達と、おにごっこを心から楽しむ那帆さんの様子がありありと浮かび上がってきます。「白い息」からは一生懸命走る様子だけでなく、友達の名前を呼ぶ声や笑い声なども聞こえてきます。さらに、「先に友追う」としたことで、一句に奥行きが生まれ、友達を追いかける那帆さんの目の前の景色がより一層鮮やかに広がりました。見えたものを丁寧に表現したことで、おにごっこが那帆さんにとってキラキラした楽しい時間だったことを感じさせてくれる一句に仕上がりました。 少徳 信(彦根市立河瀬小学校)

NPO現代の教育問題研究所賞 京都府 京都女子大学附属小学校 1年

なつぐもや はたけかけまわる ぼくとカエル 浮村聡一

「夏色」が鮮やかに映える作品です。青い空に真っ白い雲、みずみずしく実った畑の野菜、日焼けした僕と蛙。とても眩しくなるような色使いです。見上げた空から視線を地面に落とし、畑の中をかき分けると元気な生き物を発見。そして、飛び出してきた蛙といっしょに、汗びっしよりになりながら走るエネルギーギッシユな聡一さん。まさに、躍動的で、奥行きのある情景を思い浮かべさせる巧みな作品です。 海東貴利(高島市立安曇小学校)

NPO現代の教育問題研究所賞 滋賀県長浜市立虎姫学園 1年

ふゆがきた つめたいゆきが やわらかい 松本一輝

冬が来たなと感じる場面はいろいろありますが、初めて雪が降り積もった景色を見たとき、いつきさんは、「ふゆがきた」と強く感じたのですね。さつそく外に出て、雪をさわってみたいでしょう。冷たくて、やわらかい雪の様子を素直に表現できていて、雪をさわったうれしい気持ちまでも伝わってきました。この後も、楽しそうに雪遊びをしているいつきさんの姿が、目に浮かんできます。冬を楽しむ心が素敵です。 三上昌男（元近江八幡市立金田小学校長）

NPO現代の教育問題研究所賞 滋賀県長浜市立虎姫学園 3年

おとうとが はじめてきたよ 入学式 小崎 恭弥

大好きな弟さんが入学してきて、恭弥さんのお兄さんとしてとてもうれしい気持ちがよくわかります。弟さんにいろんな事を教えてあげたい、一緒に遊びたいと期待をふくらましている様子が目に浮かびます。弟さんも、きっと学校でいろんな事ができるのを楽しみにしていることでしょう。兄弟が仲よく登校したり、楽しく学校で過ごしたりする様子をおうちの方もいろいろ想像をふくらませて、ほほえんでおられることでしょう。

山田定子（近江八幡市立安土小学校）

NPO現代の教育問題研究所賞 滋賀県東近江市立能登川南小学校 5年

新米で 笑顔あふれる 家の中 箕輪 葵琉

この季節に、お米の味が話題にあがる葵琉さんのおうちの食卓がとても素敵です。家族みんなが新米を楽しみにしていることが伝わってきました。お互いに顔を見合わせてご飯を口に運び、自然と笑みがこぼれる様子が目に浮かびます。「家の中」という言葉を選んだことで、幸せが「あふれる」感じが際立つ、巧みな俳句です。弓削裕之（京都女子大学附属小学校）

NPO現代の教育問題研究所賞 大阪府八尾市立八尾小学校 4年

ころころと おおきくなるよ 雪だるま 高橋 蓮

蓮さんのお家に雪が降り、友だちやご家族と作ったのでしょうか。学校の運動場でしょうか。それとも、どこかの雪国へ、ご家族とお出かけされたときの思い出なのでしょうか。このように、読んだこちらの想像も膨らみます。最初は小さかった雪玉が、ころころと転がすほどどんどん大きくなっていく。それと一緒に大きくなる、雪玉を押す手の力や、蓮さんのわくわくする気持ち。また、周りの歓声。ほっこりと心温まる一句です。

箕浦健司（長浜市立南郷里小学校）

NPO現代の教育問題研究所賞 滋賀県野洲市立北野小学校 4年

とどいたよ じいちゃんからの さつまいも 中西 桃花

離れて暮らすおじいちゃんから届いたさつまいもを手に取りながら喜ぶ、桃花さんの声がこちらにも聞こえてきそうな一句ですね。とくに良いと思ったのははじめの五音です。「とどいたよ」の「よ」の一字があることで、届いたことを知らせたい桃花さんの気持ちをより強く表現できていますね。「おじいちゃん」ではなく「じいちゃん」としているところにも普段から親しくやりとりをしている様子が伝わります。この句でおじいちゃんに思いが届くといえますね。

北川雅士(彦根市立城南小学校)

NPO現代の教育問題研究所賞 滋賀県高島市立安曇小学校 4年

ぎんいろのさんま輝く三日月だ 土井美緒奈

目の前で光りかがやくさんまを、まるで三日月のようだと表現しました。「ぎんいろのさんま」とどまらず、「三日月だ」と描写したことで、キラキラと光る立派なさんまの迫力が伝わってきました。きつと、言葉にならないくらいおもしろいさんまだったことでしょう。海の生き物であるさんまを、夜空にかがやく三日月のようだととらえた美緒奈さんの大胆な発想力におどろかされました。美緒奈さんの持つ、美しく鮮やかな感覚を大切に、これからも俳句を作ってくださいね。

少徳 信(彦根市立河瀬小学校)

【入選作品】 238句 おめでと〜ございます。

大阪府吹田市立千里第三小学校

音楽の いきおいにのる イチヨウの葉 4年 鶴田淳梧

京都府京都市立開晴小学校

おまんじゅう わつてたべたら くりがいたよ 1年 大吉啓太

京都府京都市立西院小学校

氷さん まん丸地球 かがやくよ 4年 田中杏奈

滋賀県草津市立志津小学校

寝静まり 夜空をかける サンタさん 4年 竹内勇樹

滋賀県近江八幡市立安土小学校

ひまわりが 空に向かつて 背のびする

4年 浅野真生

京都府 立命館小学校

秋桜 見下ろす水に 映る月

5年 奥村涼司

京都府 京都教育大学付属京都小中学校

星月夜 海にかがやく 贈り物

5年 西川 慧

滋賀県蒲生郡日野町立桜谷小学校

たんぽぽで お花のかんむり つくったよ

3年 木本怜那

滋賀県東近江市立能登川南小学校

年賀状 感謝の想い 伝えたい

5年 松田 響生

滋賀県大津市立中央小学校

おじいちゃん ビールのみすぎ かんべんよ

1年 服部 蘭

七六五 にじの色の かんじかた

2年 服部純玲

滋賀県彦根市立城南小学校

台風が 海をねじって あばれだす

5年 馬場陽太

バランスを 取るかのように 落葉する

5年 辻 航佑

しんこきゅう すつてはいて 天高し

5年 畑井 要

長崎県諫早市立本野小学校

虫いっぱい たいようぴかぴか 花がさく

3年 石橋美和

さんまがね キラキラ海を およいでる

5年 立川寛人

いねたちが ぐんぐんそだつ こがねいろ

5年 小野心晴

厚着して ぼくの体も 雪だるま

6年 山崎隆虎

滋賀県高島市立安曇小学校

かまきりが かまをぶんぶん ふっている 3年 呉山 匠
 五重の塔 夕日にてらされ 影になる 3年 宮本 夏
 紅葉で 色づくもりを ながめる朝 4年 八代彩希
 もみじの葉 露天風呂は 赤いお湯 4年 勝見泰成

京都府京都市立花園小学校

まど開けて まるでおもちの 雪景色 5年 舟木吾結人
 太陽は ぎらぎらあつく たおれそう 5年 亀井琴絵
 初雪と 真っ赤な夕日が 舞い落ちる 5年 花井泉稀
 ふわふわと 空に広がる 冬の雨 5年 階堂穂之香
 花たちの 冬のファッション 白ぼうし 5年 上宮光陽

滋賀県野洲市立北野小学校

まつぼっくり 愛犬マロン おもちやだよ 6年 坂田晶輝
 空一面 水玉もようの 冬の夜 5年 岡本有佳
 雪さわり 真っ赤になった わたしの手 5年 吉村颯華
 木がらしが おくってくれる プレゼント 5年 嶋之浦紅葉
 サンタさん 今年はね上げ たいへんだ 2年 大堀礼生
 だいこんが おいしいおでん みんなえがお 2年 濱西晃太朗

和歌山県有田郡有田川町立鳥屋城小学校

ビヨーンと のびたマイマイ のっそりと 5年 成川 漣
 はんこおし みかんの箱に テンポよく 5年 張道いおり
 そうめんだ 流れていくよ にぎやかに 5年 沼谷優花
 北風ふき 母の手をとり 手をつなぐ 5年 西林月那
 光る海 まっかな夕日 笑ってる 5年 尾浴由樹美
 ころもがえ もふもふセーター ぴっちぴち 5年 大野真依
 炎天下 笛が鳴ったら キックオフ 5年 東 奏真
 あたたかい さくらがまうよ 新入児 5年 上山陽生

兵庫県西脇市立双葉小学校

おいしいな いちごみるくの かきごおり 1年 金田真歩
いたかった いえのぷうるで はがぬけた 1年 友松煌喜
びっくりだ ぷうるのついた おへやだよ 1年 今村英眞
夏だけの めざまし時計 ミンミンと 4年 藤井べには
ひまわりが 上からぼくを 見ているよ 4年 穂満悠人
夏色の 白い冰山 食べつくす 5年 竹谷晃希
炎昼に カーンと響く 甲子園 5年 藤原悠生
ドーンドン 夏の夜空に かき開く 6年 金田大輝
夏休み つい見てしまう カレンダー 6年 酒井優佳衣

滋賀県高島市立朽木中学校

大人びて 年々増える お年玉 3年 田中 結
七時半 ふつとため息 息白し 3年 上田悠太
アップNOW セミが鳴き出し 木を睨む 3年 東村奨真
鮎達と 一緒に遊ぶ わたしたち 3年 上野柚稀
もみじ落ち 気分はまるで ハリウッド 3年 氏王春翔
サングラス 日焼け対策 川行くぞ 3年 岸本蒼衣
星屑を 独り見っていた 路の上 3年 佐古野々花
梅雨来たる 教室響く ぼたぼたと 3年 杉田匠飛
炎天下 水分取っても インフェルノ 3年 田中 仁
行ってきます ドアを開けたら 夏の雨 3年 田中勇人

滋賀県大津市立瀬田小学校

はれた空 ピンクのさくらが ゆめ見てる 1年 濱田結菜
どنگりを ひろいましたよ わーいわーい 1年 山本真緒
あおい空 どنگりさんが わらってる 1年 大曲杏奈
はれた空 白いちゅうりっぷ ゆめみてる 1年 坂口 蒼

ほしまつり おはなやさんに なりたいな 1年 濱野禾菜
 よるの空 ほしさんきらり 月よう日 1年 福田笑茉
 お正月 うさぎさんと おめでどう 1年 宮田紗羽
 はれた空 コスモスさんが ゆめ見てる 1年 井端奏吾
 はれた空 コスモスさんが わらってる 1年 今井萌那
 思い出の みんなを包む 金木犀 5年 吉田真歩
 文刻む 秋の夕暮れ 与謝蕪村 5年 竹岡 志

滋賀県彦根市立河瀬小学校

0時まで 友情話 おおみそか 5年 落合いろは
 天狼の 下に見えるは 笑顔かな 5年 疋田咲楽
 びわ湖には 無数の冬の 星ねむる 5年 平松晃輝
 LINE待つ 夜あまずっぱい 冬のこい 5年 星谷莉音
 朝の光 あびるわたしも たんぽぽも 5年 夏川紬来
 砂浜で 手おしずもうや 夏の空 5年 向 唯斗
 家の前 入道雲が 立っている 5年 善利心春
 とび起きて まどに落書き 冬の朝 5年 谷 蓮叶
 豆入りの おもち楽しみ お正月 5年 土屋麗美
 星ひとつ 最後にかざる ツリーかな 5年 大下奏愛
 のぼりぼう はるかに校舎 若葉風 5年 宇野琥太郎
 デイズニーの 空にはじける ソーダ水 5年 石本柚希
 春の朝 バットふってる 試合前 5年 青木颯大

和歌山県有田川町立藤並小学校

ホクホクと これは何かな さつまいも 4年 雨乞恵亮
 くさのうえ しもたちあそぶ ふわふわと 4年 北畑美操
 雪げしき かたをおとして ろてん風呂 4年 宮所侑正
 笑ってる てんこうせいが 春のなか 4年 東奏太郎
 大きな花 うつとりしちやう 夏の空 4年 岡蓮一朗

ニワトリが コッコとはしる アツイあさ 4年 浅井悠成
 ししまいだ 頭かまれて よしやるぞ 4年 喜多哉実
 八月に 家ぞくがふえた おおさわぎ 4年 向井うらら
 愛犬と 初めての冬 何しよう 4年 井窪結芽
 雪包む 真つさらさらな ていりゆうじよ 4年 中嶋斗真
 ぺったんこ ついてまるめて もちつくぞ 4年 馬谷晃太郎
 空一面 ひらひらゆれる 雪の花 4年 上嶋いと
 春の時期 ぼくは桜に 恋をした 4年 小川友鈴
 星たちの イルミネーション クリスマス 4年 中井陽菜

大阪府八尾市立八尾小学校

木の上で たったひと夏 歌うセミ 4年 森脇夕日
 夏の朝 めざまし時計は セミ達だ 4年 大黒心花
 おもちつき 強くたたいて がんばるぞ 4年 清水伊織
 日の光 照らした先は カブトムシ 4年 脇田真澄
 夏の空 大好きあの子と 見てみたい 4年 小宮万葉
 弟は 冬の初めは 半そでだ 4年 山田瑚々
 冬の道 両手の中に ホットココア 4年 棚田華叶
 オリオン座 庭をめぐれば 一時間 4年 小原伸一郎
 なぜだろう 走っているよ 冬の雨 4年 青野楓加
 枯草の 茶色の岡 トンボ飛ぶ 4年 馬庭菜帆
 かえり道 マフラーマいて ひとりごと 4年 杉原唯果
 屋根の下 水からできた 冬の剣 4年 山下実々子
 ゆず風呂で おとうといっしょ 顔赤く 4年 北村璃心
 はつもみじ おもいだすな 小さな手 4年 守時 凜
 おきなさい 母の声して ふとん出る 4年 西村安央
 夕焼けの 下のプールは 光ってる 4年 飯島葉月
 春の山 動物たくさん うれしいな 4年 栄楽桔平
 花よりも 日のあるところ 秋のちよう 4年 板倉冬真

除夜の鐘 わたしもうつよ 常光寺 4年 桐山笑佳
いつもより 今日の毛布は 温かい 4年 川内桃禾
しゅんになり さんまいっぱい とれたかな 4年 駿河 蒼

滋賀県長浜市立虎姫学園

まつぼっくり おもちやをつくって あそんだよ 1年 太田イオリ
ゆきがつせん ねらってねらって あてられた 1年 土田颯祐
ひまわりが たいようむいて にらめっこ 1年 河島結衣
つくりたい ぼくより大きな ゆきだるま 2年 廣田珠力守
春休み もうすぐ学校 楽しみだ 2年 上田大輝
雪だるま かぞくをつくって ならべよう 2年 西川紗風
赤とんぼ いっぱいとぶよ おにごっこ 3年 森 悠翔
春風が しばふと楽しく 遊んだよ 3年 松本瑚春
赤とんぼ 多くのなかま 家族かな 3年 中川宥生
正月に バトンがうさぎに わたされる 3年 藪内陽祐
あったかい パパとさんぼ さくら見る 3年 北川悠斗
雪だるま 鼻はにんじん 目は石だ 3年 北川歩美
しんしんと ころころり 雪だるま 3年 大海想右助
作ったよ 三段重ねた ゆきだるま 4年 竹森蓮人
さつまいも しゅうかくできた だろんこだ 4年 北川輝空
てをはさむ おれがきらいか クワガタよ 4年 栗原 湊
お月様 夏至の日には おねぼうさん 5年 吉田妃那
どんぐりが ぼうしをかぶって おでかけだ 5年 森 柚妃
朝顔の 数だけふえる 弟の笑み 5年 尚永苺華
木のかげに 休けいしている きのこたち 5年 多賀 葵
雪の日を こたつの中で 待つ二人 5年 川上大輝
登下校 桜に見送り される日々 6年 野村朱伽
教室の カーテンごしに 落葉舞う 6年 板谷一花
冬の店 ココアもとめて 急ぎ足 6年 米田杏理

どんぐりで ネコとあそんだ 昼下がり 6年 宮部美佑
友の家 走って入る 夏の昼 6年 山田海吏

京都府 京都女子大学附属小学校

くじびきで あたりうれしい なつまつり 1年 松本志穂
あきのそら ふしぎにみえる そらのくも 1年 清水陽代里
すいかわり いえのガレージ たのしいな 1年 奥田優一
いねかりだ かまでザクザク こわかった 1年 岡本憲汰
どんぐりに おかおをかいて かわいいな 1年 福富諒人
なつによる ほしがきらきら とんでいる 1年 西阪洸亮
もみじがね おどりだしたよ かわいいな 1年 門脇慶子
下校時に さんまのにおい おなかすく 2年 川畑まい
おちないで いのちのようだ せんこう花火 2年 笹谷季布
セミの声 おまつりみたいに ひびいてる 2年 増田るるは
ふわふわと にじいろひかる しゃぼん玉 2年 林 鈴花
秋の山 手のひらたくさん おちている 2年 中井穂佳
なつまつり かがみにうつる ゆかたかな 2年 新井詩乃
一年生 キュウリまがつて へそまげる 3年 浮村美千子
たくさんの とんぼの中で かげおくり 3年 沼波明希
夏休み いろんな野菜 そだてたよ 3年 石井董令
友だちと ゆかた着て行き 夏祭り 3年 富永 蘭
ほおずきで 小さなふえを 作ったよ 3年 植木真弥
空高く 散る花のよう あきあかね 4年 白 瑞芽
らんでんで 桜トンネル 通ったよ 4年 岩本悠希
春を呼ぶ 一年生の ランドセル 4年 山本琴花
ポンポンが きれいに光る 運動会 4年 藤原ふうか
のき下を 見上げた先に つばめの巣 4年 玉井みのり
下校中 さんまのにおいに おなかなる 4年 小塩春菜
ひまわりは スポットライトを 浴びている 5年 滝川絢彩
夏過ぎて 小さくなった 服とくつ 5年 小峯れいあ

こおろぎの 飛び交う声の 音楽会	5年	飯島彩日
春の朝 黄色のカバー 卒業す	5年	尾花和奏
春の山 やさしい色の 衣着て	5年	一木涼歌
秋晴れの 空にかがやく 一等賞	5年	石原里桜
渋柿は 庭に干されて 年をとる	6年	山添 陸
国鉄開通 百五十年祝う 月光	6年	北爪 尊
七夕の きらめく銀河で 再会だ	6年	小川 遥
新米の 眠気をさそう 味覚かな	6年	稲富咲智
名月だ 団子を空へ 投げたよう	6年	遠山史桜
地球ぎを くるりと回す 秋の風	6年	今井瑠葦

滋賀県草津市立笠縫東小学校

どんぐりを ころころしながら さんぽする	3年	竹内菜希
追いかける 道ろを走る やきいも屋	3年	片山愛都
くねくねと あおむしあるこ キャベツの葉	3年	米田理希
秋の夜 部屋にさしこむ 月明り	3年	岡山朋生
夏まつり シヤテキでゲット おかしの山	3年	川端友梨
バツタたち 一、二、三と とんでいる	3年	樋上朱里
ぼくたちは みんな友だち 春の空	4年	卯田 京
すり足で 足が赤いよ 寒げい古	4年	上段琥珀
おばあちゃん なくなり百日 秋の夜	4年	奥村麻由
母さんと じてんしゃのった 秋の空	4年	塚原将真
しんせんな トマトをねらう 夜ごはん	4年	小西菜々美
秋の声 初めてできた さか上がり	4年	鈴木葵花
リビングに てっぼうゆりの 香りまう	5年	飯田華妃
草原に 子ねこ三匹 花ひらく	5年	木村 咲
こうえんで ぶらんここいで 空を見た	5年	平居緒音
妹と ともにブランコ 空高く	5年	小山修治
おじいちゃん トマトを持って 家に来た	5年	山田陽香

父きたく まつたけ香り 笑いあう	5年	内田優衣
さつまいも 五人兄弟 土の中	5年	澤島 諒
自転車で こいだその先 かき氷	5年	高岡晃成
ドビュッシー 上手にひけた 秋の夜	5年	細田紗世
炎天下 マウンドに立ち うでをふる	5年	笹次鳳太
そろばんの けんてい合かく 春の空	5年	中村衣都
秋の空 ひつじの大群 現れた	5年	道浦新菜
プール後の つかれるじゅ業 五時間目	5年	甲斐正樹
そろばんの 合格通知 夏光	5年	堤 雄音
クローバー あるかないかは 君しだい	5年	湯浅悠可
台風で アニメがニュースに かわる昼	5年	岸本拓巳
姉さんの イヤホンあげた 春の雨	5年	下坂莉久
兄ちゃんと だまって食べた さつまいも	5年	福井さら
キンモクセイ あのいいにおいを 感じたい	6年	島田琴音
見つけたよ 四つのハート 春の日	6年	南 佳希
盆休み 家族集合 バーベキュー	6年	野々村怜奈
かき氷 まつ青なベロで あっかんべー	6年	服部翔優
菜の花が 葉山川に 咲きほこる	6年	山本陽太
春の風 花の香りが まぎってる	6年	佃 拓飛
帰り道 ハチからにげる おにごっこ	6年	瀬口博斗
登下校 たんぽぽ輝く 一本道	6年	中島菜月
たくさんの まいおりてくる 夕日色	6年	浅野未侑
天高し 雲が遠くに どこまでも	6年	山中琉生
春の土 小さな花が こんにちは	6年	石田陽彩
妹と 食べる焼きいも アツアツ	6年	中山翔喜
春の川 散ったさくらが 泳いでる	6年	山川優奈
たんぽぽを 見つけてはとる 妹と	6年	佐藤 楓

あとがき

第4回となりました特定非営利活動法人現代の教育問題研究所主催の「近江の子ども俳句教室」(投句部門)には、全国各地の学校、ご家庭から三千句を超える応募をいただきました。実行委員一同は大変喜んでおります。ありがとうございます。

さて、俳句は「五音十七音十五音」の言葉の組み合わせてできますが、わずかに十七音で実に多彩で豊かな表現ができる不思議さを味わうことができるものでもあります。

先日のことです。雪が降りつづく窓の外を眺めている数人の子どもにこんな質問をしました。「雪が溶けたらどうなるかな?」と。

小学二年生のAさんは、「水になる」と答えました。隣で一緒に見ている六年生のBさんにも同じように聞いてみました。するとBさんは「楽しさが帰ってくる」と言います。Aさんは雪そのものの変化を答えています。そして「雪とけて水とドロとの運動場」という句ができました。一方、Bさんは、雪の降る窓の外の景色から寂しさや悲しみを感じ、それが解けると心に明るい気持ちちがよみがえってくるイメージしました。そして「雪とけて明るい気持ちちがよみがえる」という句ができました。同じ場面を見ていながら、二人からは違う句が生まれました。目の付けどころ、心での感じ方は人それぞれです。俳句を読んで、その句の作者の世界の見方・感じ方を想像してみながら降る雪を眺めていました。

この作品集にある俳句を一つ一つ読んで、作者のすぐそばにいるつもりで、目の付けどころを見つけ、それをどのように考えたり、感じたりしているのかなど想像しながら読み返していると、大変楽しい時間を過ごすことができるでしょう。嬉しい俳句、驚きや発見の俳句、頑張りの俳句、それぞれから作者の思いを受け取って頂くとありがたいと思います。

また、「私の推し句」を紹介し合ってみるのも楽しい時間になることと思います。俳句を作ることと同じように俳句を読んだ感想を語り合う楽しさを是非体験してください。そして言葉を通して互いの思いをわがことのように感じて分かち合い理解し合う「国語の人間力」を育てていただきたいと思います。

最後になりましたが、この度の事業に対してご後援を賜りました滋賀県知事三日月大造様はじめ、大津市、草津市、滋賀県教育委員会、大津市教育委員会、草津市教育委員会、草津俳句連盟、エフエム滋賀、FMおおつ、えふえむ草津、朝日新聞大津総局、毎日新聞大津支局、読売新聞大津支局、中日新聞社、産経新聞社に厚く御礼申し上げます。併せて、事務局よりの問い合わせや確認等につきまして懇切丁寧に対応してくださいました各学校の教職員の皆様、ボランティアとして援助してくださった皆様に、関係者を代表して心より御礼申し上げます。

令和五(2023)年二月吉日

特定非営利活動法人「現代の教育問題研究所」

副理事 森 邦 博

第4回近江の子ども俳句教室〈投句部門〉作品集

発行：2023年2月25日

編集：好光幹雄

発行責任者：NPO法人現代の教育問題研究所

NPO法人現代の教育問題研究所

理事長 吉永幸司 Web <http://kokugo-npo.com>

『国語力は人間力』

この理念のもとに基本的な3つの柱で事業及び活動をすすめています。

- ◇ 国語力・心の教育の指導技術向上及び継承を行う活動
- ◇ 国語力・心の教育の実践を広く行う事業
- ◇ 国語力・心の教育の重要性を広く周知する活動

☆さざなみ国語教室 代表 吉永幸司

～国語教育に関わる教師の研究サークル～

Web <http://www.eonet.ne.jp/~sazanamikokugo/>

☆近江の子ども俳句教室 実行委員長 好光幹雄

～子ども俳句の普及と指導者の育成をめざして～

- ◆コメントを添えた大賞作品は「えふえむ草津 78.5 MHz」のオンデマンド放送で何時でもPC・スマホで聞けます！番組「俳句5・7・G0の時間」2123年2月、3月放送分。

